

Will Smart、WILLER EXPRESS と国土交通省の地域交通 DX 事業に採択 車載データ・AI と実運行環境を活用し、バスの運行・安全管理を高度化 ～標準化された業務モデルをベースに、現場で使える運行系業務支援システムの構築を目指す～

「移動」を支えるテクノロジー企業として地域交通インフラの課題解決に取り組む株式会社 Will Smart（本社：東京都江東区、代表取締役社長：石井康弘、以下 Will Smart）は、WILLER EXPRESS 株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役：平山幸司、以下 WILLER EXPRESS）とともに、国土交通省の令和 8 年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」地域交通 DX 推進タイプにおいて、両社を実施主体とする「バス業務標準仕様準拠 車載デバイスや AI 技術を活用した運行系業務システムおよび安全管理業務の高度化の技術検証」（以下、本プロジェクト）が支援対象に選定されました。

※ 本プロジェクトの採択および本システムの開発については、2026 年 8 月 14 日付「固定資産の取得に関するお知らせ」にて公表済みです。本リリースは、その具体的な内容をお知らせするものです。

国土交通省 地域交通 DX 推進タイプ 選定

バス業務標準仕様準拠 車載デバイスや AI 技術を活用した 運行系業務システムおよび 安全管理業務の高度化の技術検証



■ 本プロジェクトの背景と概要

バス事業の現場では、人手不足や業務の属人化に加え、安全管理・運行管理・旅客向け情報提供の各システムが分散していることによる、業務負担や運用コストが課題となっています。また、車両から取得できるさまざまなデータを一元的に活用し、運行管理や安全管理の効率化・高度化につなげる仕組みの構築も求められています。

こうした課題に対し、本プロジェクトでは、国土交通省が定めたバス業務標準仕様書に準拠した、Web ベース、ペーパーレス、IoT 等の技術を取り入れた運行系業務支援システムを新たに開発します。

WILLER EXPRESS が実際のバス運行を通じて蓄積してきた安全管理のノウハウや実運行環境と、Will Smart が開発するシステムや車載デバイス、AI を活用した仕組みを組み合わせ、実際の現場で活用できる運行・安全管理の仕組みとして機能するかを検証します。

本プロジェクトを通じて、業務の標準化・効率化と安全管理の高度化を図るとともに、将来的には他のバス事業者にも展開可能な、経済合理性のあるパッケージサービスの実現を目指します。

■本プロジェクトの3つのポイント

①標準仕様を参考に、運行系業務支援システムを新規開発

国土交通省が定めたバス業務標準仕様書に準拠した、運行管理、バスロケーション、GTFS 化ツール等を備えた Web ベースの運行系業務支援システムを新規開発します。

既存システムを標準化仕様に合わせて改修するのではなく、標準仕様を前提として新たに設計することで、事業者ごとの業務にも柔軟に対応できる拡張性を確保します。また、安全管理・旅客向け情報提供・運行管理と各種データを連携させることで、業務を横断的に支援できる環境を構築します。

② 車載データを一元管理し、運行・安全管理と情報提供に活用

OBD 型デジタルタコグラフやドライブレコーダーから取得する車両データをクラウド上で一元管理し、運行データの分析・改善や安全対策の高度化に活用します。あわせて、GTFS Realtime による運行情報の外部公開、安全管理クラウドシステム「RootS」との連携、AI を活用した運行管理業務の効率化に取り組みます。

これにより、車両から取得したデータを単に蓄積するだけでなく、運行管理や安全管理、利用者への情報提供など、バス事業におけるさまざまな業務に横断的に活用することを目指します。

③ WILLER EXPRESS の実運行環境で安全管理業務を技術検証

WILLER EXPRESS が運行する「成田シャトル新木場線」（潮見・新木場駅～成田空港・芝山町役場）を実証フィールドとして、車両から取得する各種データを活用した安全管理業務の高度化についての技術検証を行います。実際の運行現場において、WILLER EXPRESS の安全管理クラウドシステム「RootS」と Will Smart が開発する運行系業務システムを連携させることで、システムの機能性だけでなく、日々の運行業務の中で活用できるか、業務効率化や安全管理の高度化につながるかを検証します。

両社が、それぞれの知見・技術を持ち寄ることで、バス事業者の現場で実用可能な DX モデルの構築を目指します。

■本プロジェクトで目指すこと

本プロジェクトでは、以下の実現を目指します。

- ・業務の標準化・効率化：標準化された業務モデルを参考に、属人化している業務の効率化やペーパーレス化を推進します。
- ・運行・安全管理の高度化：車載データや AI を活用し、これまで人の経験や判断に依存していた業務をデータに基づいて支援します。
- ・利用者への情報提供の高度化：運行データを活用し、より正確かつリアルタイムな運行情報の提供を目指します。
- ・導入・運用コストの低減：既存システムと比較し、初期導入費やデータ更新・運用にかかる人件費などを含めたトータルコストの低減を検証します。
- ・バス業界への展開：特定の事業者だけでなく、他のバス事業者にも展開可能な、経済合理性のあるパッケージサービスの実現を目指します。

■今後の取り組み

2026 年 8 月からシステム化要件の整理を開始し、9 月から 12 月にかけてシステム開発を進めます。その後、2026 年 12 月から 2027 年 1 月にかけて実証検証を行い、2027 年 2 月に結果の報告・評価を実施する予定です。

WILLER EXPRESS と Will Smart は、本プロジェクトを通じて、実際のバス運行現場における運行管理・安全管理の正確性を高め、効率化を図るとともに、利用者向け情報提供の利便性向上を検証します。また、実運行で得られた知見をもとに、標準化された業務モデルと車載データ・AI 等のテクノロジーを組み合わせ、バス事業者が導入しやすく、継続的に運用できる DX ソリューションとしての展開を目指します。

両社は、テクノロジーと現場の知見を掛け合わせることで、バス事業者の業務負担軽減と安全性・サービス品質の向上を両立し、持続可能な地域交通の実現に貢献してまいります。

■ 本プロジェクト概要

事業名	バス業務標準仕様準拠 車載デバイスや AI 技術を活用した運行系業務システム および安全管理業務の高度化の技術検証
実施主体	株式会社 Will Smart、WILLER EXPRESS 株式会社
主な実施地域	千葉県成田市・山武郡
実証フィールド	WILLER EXPRESS「成田シャトル新木場線」(潮見・新木場駅～成田空港・芝山 町役場)
今後のスケジュール	・2026 年 8 月～9 月：システム化要件整理 ・2026 年 9 月～12 月：アジャイル型開発／AI 駆動型開発／モジュール利用 ・2026 年 12 月～2027 年 1 月：実証検証 ・2027 年 2 月：報告・評価

株式会社 Will Smart とは

Will Smart は顧客企業との対話を通じて培った経験やノウハウ、最新のソリューションを活用し、モビリティ業界のお客さまとの共創による社会課題の解決に取り組んでいます。

特に、デジタル技術を活用した既存業務の無人化や自動化に強みを持ち、バスターミナルにおけるバスダイヤ統合表示システムの新規開発や EV カーシェアリング・無人レンタカー・ライドシェア等を実現する IoT 車載デバイスの提供、バス共同経営を支えるデータ分析基盤の構築など、幅広い分野での支援実績がございます。

詳しくは Will Smart の Web サイト(<https://willsmart.co.jp/>)をご覧ください。

会社概要

会 社 名：株式会社 Will Smart

代 表 者：代表取締役社長 石井康弘

設 立：2012 年 12 月 12 日

上 場：東証グロース (175A)

事業内容：モビリティ業界を中心とした事業課題解決に対して DX 技術を駆使したソリューションの企画・提案、ソフトウェアの受託開発と運用支援。

資 本 金：865 百万円 (2026 年 6 月 1 日現在)

WILLER EXPRESS 株式会社とは

WILLER EXPRESS は、「最先端の技術とおもてなしの心でお客様と社会に優しい移動サービスを実現する」をフィロソフィーに掲げ、快適性を追及した多彩なシートや女性も利用しやすい車内環境づくり、デジタル予約サービスの充実、サービス品質の向上など、業界の既成概念にとらわれずに移動に新たな価値を創造してまいりました。今後も、高速バス「WILLER EXPRESS」、池袋のまちなかを走る「IKEBUS」、食と観光を融合した「東京レストランバス」等を通じて、安心・快適な移動はもちろん、新しい価値や体験を提供してまいります。

詳しくは、WILLER EXPRESS の HP (<https://www.willerexpress.co.jp/>) をご覧ください。

会社概要

会 社 名：WILLER EXPRESS 株式会社

代 表 者：代表取締役 平山 幸司

設 立：2012 年 9 月 1 日

所 在 地：東京都江東区新木場 1-18-13

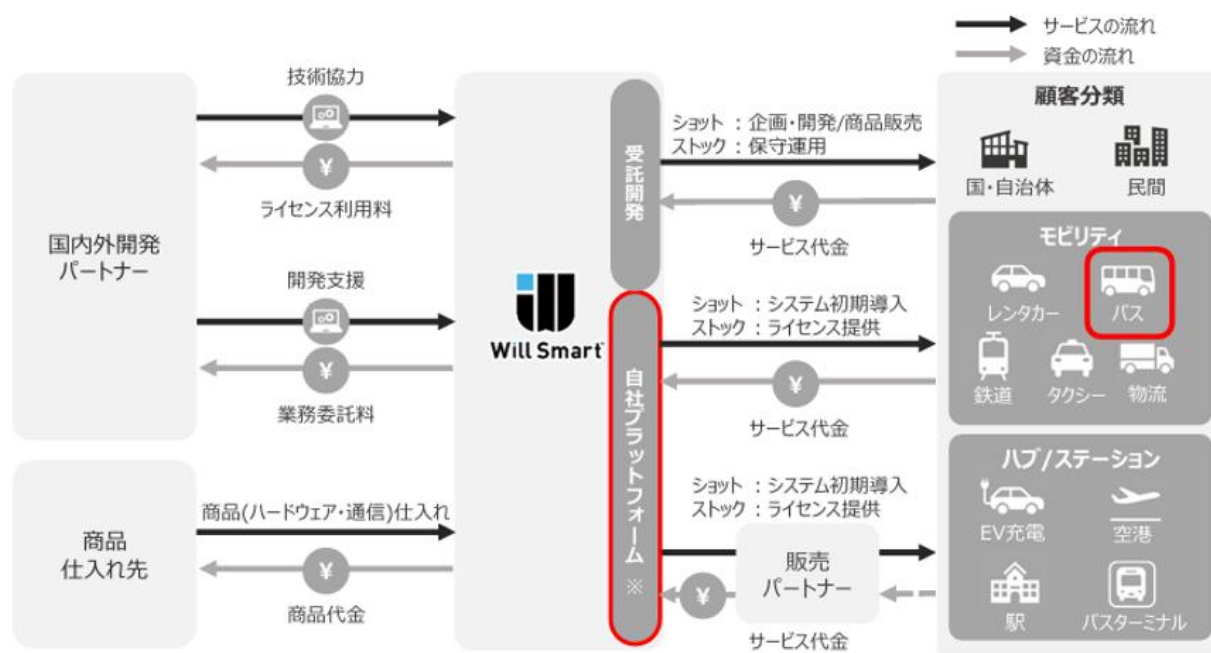
【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 Will Smart 広報担当

TEL:03-3527-2100 MAIL: pr@willsmart.co.jp

【補足説明資料】

本取り組みにおけるビジネスモデル上の位置づけ



※自社プラットフォームとは、当社の商品パッケージ群のこと。ハードウェアも含む。

当社は、「中期経営計画 2030 Beyond 100」において、「地域交通 DX」を3つの成長ドライバーの一つに掲げています。

バス事業者向けの基幹業務システムは、計画系・運行系・実績集計系の3つの機能群で構成されます。当社は、2026年9月2日に公表した「バス業務標準仕様に準拠したWEBベース計画系・実績集計系クラウドシステムの新規構築」とあわせ、本プロジェクトにおいて運行系の技術検証に取り組むことで、標準仕様に準拠した基幹業務システムを機能群横断で開発・検証する体制を構築します。

当社は、複数の事業者へ展開可能な自社プラットフォーム（自社のパッケージ商品群）の拡充を、ビジネスモデルの中核と位置づけています。本プロジェクトは、当社が自社プラットフォームとして開発するシステムを対象に国の支援を受けるものであり、開発投資の負担を抑えながら、標準仕様に準拠したサービスを構築するものです。実証と評価を経て、他のバス事業者へ展開可能なパッケージサービスとしての提供を目指し、初期導入に伴う一時的な売上（ショット売上）に加え、継続的なライセンス・利用料等の積み上げ型の売上（ストック売上）の拡大を図ります。

当社はKPIとして、自社プラットフォーム売上比率の引き上げ（2025年12月期 約30%から2030年12月期 70%以上）と、取引社数の拡大（約100社から300社以上）を掲げています。本取り組みは、標準仕様に準拠したSaaS型サービスの横展開を通じ、これらKPIの達成に寄与するものと考えています。